

香川の遺跡から

けんしていしせき しろとりはいじあと
県指定史跡 白鳥廃寺跡 (東かがわ市湊)

白鳥廃寺跡は東かがわ市の湊川河口付近の丘陵南側に位置しています。かつて2つ並んだ方形の土壇と古瓦の散布から寺院跡と推定されていましたが、昭和43年に県と白鳥町(当時)が行った発掘調査によって寺院跡と確定し、「白鳥廃寺跡」として周知の埋蔵文化財となりました。東の土壇は塔の、西の土壇は西方建物の基壇と判明し、さらに周辺には北方土壇、回廊、中門、南大門の存在が推定されています。出土した瓦の年代から、白鳳期から平安時代まで続いた伽藍配置が推定できる古代寺院として、土壇を中心とした寺域の一部が昭和44年4月3日に県指定史跡となりました。平成24年度に国道バイパス工事に伴い隣接する山下岡前遺跡を^{やましたおかまえいせき}発掘調査したところ、伽藍建物と同じ方向をもつ建物跡などや仏像頭部の螺髪・大量の瓦が見つかり、白鳥廃寺跡に関連する遺跡と判明しました。東かがわ市の調査では北方建物が上下2段の壇状であったことが明らかになるなど、新たな情報も得られています。周辺の環境も含めて後世に守り伝えたい史跡のひとつです。(宮崎哲治)



▲白鳥廃寺跡の史跡範囲 (写真上が北) 写真提供: 香川県教育委員会



▲山下岡前遺跡で見つかった建物跡など (当センター調査) 写真奥は白鳥廃寺跡の調査 (東かがわ市教育委員会調査)



白鳥廃寺跡の主要伽藍建物と山下岡前遺跡の建物など▶



香川県埋蔵文化財センター

〒762-0024 香川県坂出市府中町字南谷5001-4
 tel. 0877-48-2191 fax.0877-48-3249

<https://www.pref.kagawa.lg.jp/maibun/maibun/index.html>



いにしへの讃岐



◀サヌカイトの剥片でタイを解体しました



▲讃岐国府まつり ためしてみようむかしの暮らし 弥生土器を真似て作った土器を使って煮炊きをしました (11月24日当センター復元竪穴住居内にて)

木製品の樹種を調べる

この木なんの木？

私たちの周りに生えている木であれば、葉の形、樹皮の特徴、花や実の色や形で木の名前がわかります。ところが、遺跡から出土する自然木や木製品には、これらの特徴の多くが失われていて、見ただけでは木の名前がわかりません。どうしたら名前を知ることができるのでしょうか？

樹木には水分を通す組織があります。針葉樹（ヒノキ・スギなど）には仮道管という細胞があり、この細胞の壁には多数穴があります。広葉樹（クヌギ・コナラなど）には道管という細胞があり、この細胞は根から木の先までつながっています。木の断面を見ると、針葉樹には道管がありませんが、広葉樹には木の繊維の間に道管があり、道管の並び方は樹種によって異なります。このような特徴は、遺跡から出土する木と現在の木ではほとんど変わりありません。

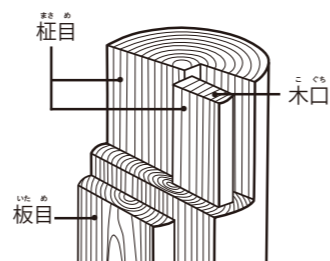
これらを利用して、出土した木材と現在の木材の構造的な特徴を比べると、種類を知ることができます。そこで、木の組織を観察するための方法が必要となります。この方法を樹種同定と呼んでいます。



▲針葉樹 ヒノキ 城山神社（坂出市府中町）境内にて撮影
▲広葉樹 クヌギ

樹種同定の方法

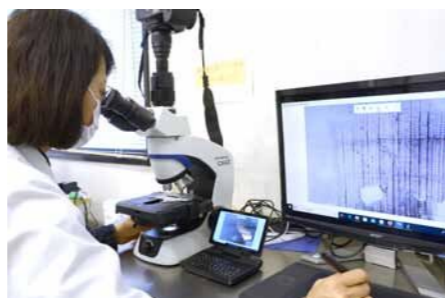
- ①形を損なわないように木製品の一部を注意しながら、カミソリで薄く切り取ります。組織は切り取る面によって模様が見え方が変わるので、切り取る面には決まりがあり、木口・柱目・板目の3方向の面が必要です。
- ②薄く切り取った木の組織を観察するためのプレパラートを作ります。
- ③木の組織を顕微鏡で観察し、標本と比較することで、樹種を同定します。



①カミソリで薄く切り取ります。



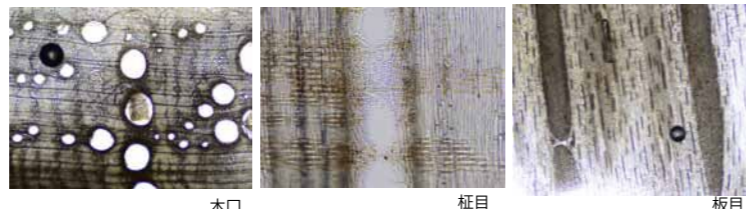
②プレパラート



③顕微鏡で観察します。



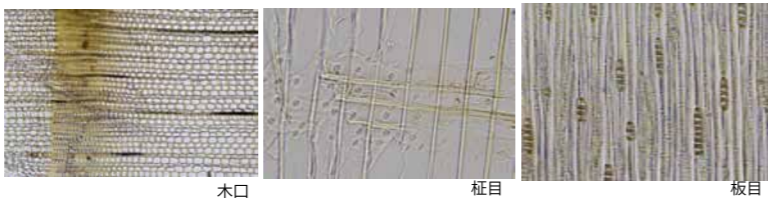
下川津遺跡（坂出市）から出土した古墳時代の横槌 広葉樹クヌギ



木口 柱目 板目



高松城跡（西の丸町地区）（高松市）から出土した江戸時代の曲物 針葉樹ヒノキ



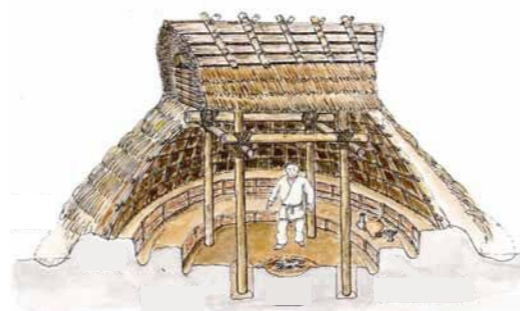
木口 柱目 板目

樹種を調べると

1 どのような種類の木からどのような木製品を作っていたのかわかります。

木製品の樹種を調べると、用材の選択や、時代による用材の変化の有無などを知ることができます。また、遺跡から出土した自然木の樹種を調べることで、周囲に生育していた木の種類を知ることができます。

広葉樹



広葉樹の柱



広楯 アサギ 弥生時代 鴨部・川田遺跡（さぬき市）



縦杵 広葉樹 弥生時代 鴨部・川田遺跡（さぬき市）



カラスキ※ ケヤキ 古墳時代末期～平安時代初期 下川津遺跡（坂出市）※牛馬に引かせて田畑を耕すのに用いる鋤



横櫓 広葉樹 戦国時代から江戸時代初め 東山崎・水田遺跡（高松市）

針葉樹



ヒノキの柱



柱 ヒノキ 奈良時代 山下岡前遺跡（東かがわ市）



扇 ヒノキ 平安時代 鴨部・川田遺跡（さぬき市）



呪符木筒※ モミ 戦国時代から江戸時代初め 東山崎・水田遺跡（高松市）※災いや邪気を払うための呪文や符号を書いた木札



金隠し※ モミ 江戸時代 高松城跡（高松市）※便所の部材

2 最も適した方法で木製品の保存処理を行うことができます。

遺跡から出土した木製品は土中の水分が入り込んだ状態で形をとどめています。そのまま乾燥させると変形し、収縮してしまうため、長く保存させるための処理が必要になります。処理を行う前にあらかじめ樹種を調べ、その樹種に最も適した方法で、処理を行います。当センターでは主に、合成樹脂であるPEG(ポリエチレングリコール)を水の代わりに含浸させて形を保つようにする保存処理を行っています。事前の観察と調査は保存処理の結果を左右する重要な要素になります。

（小早川真由美・森下友子）



木製品の保存処理 木製品を PEG 溶液に漬けています▲



含浸を終えた岸の上遺跡（丸亀市）の木製品 ▶